

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局地域支援部長寿社会対策課
評価対象期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	北九州市立年長者研修大学校 (周望学舎・穴生学舎) 北九州穴生ドーム	施設類型 <small>(年長者研修大学校)</small> Ⅲ <small>(穴生ドーム)</small> Ⅲ	目的・機能 ⑦ — ②
	所在地	周望学舎：小倉北区新高田二丁目29番1号 穴生学舎：八幡西区鉄竜一丁目5番1号 穴生ドーム：八幡西区鉄竜一丁目5番2号		
	設置目的	(年長者研修大学校) 年長者に対して学習の場を提供することにより、年長者の生きがいづくりや健康づくり及び社会活動の促進に資する。 (穴生ドーム) スポーツ活動等を通じ、年長者の健康の維持増進及び世代間における交流の促進に資する。		
利用料金制		非利用料金制 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制 インセンティブ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 ペナルティ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
指定管理者	名称	北九州市社会福祉協議会・里山を考える会共同事業体		
	所在地	北九州市戸畑区汐井町1番6号		
指定管理業務の内容		(1) 年長者研修大学校・穴生ドームの運営に関する業務 (2) 生涯現役夢追塾の運営に関する業務 (3) 庶務事務 (①各種調査、照会回答 ②備品の管理 ③使用料・受講料の徴収・返還 ④経理事務) (4) 施設の維持管理に関する業務 (①建物・設備・付属備品等の保守管理 ②建物及び敷地内の清掃 ③警備業務 ④駐車場の維持管理)		
指定期間		平成26年4月1日～平成31年3月31日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント						
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						
(1) 施設の設置目的の達成						
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。						
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取り組みがなされ、その効果があったか。						
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。						
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。						
[所見]						
<利用者数推移> (単位：人)						
		H26	H27	H28	H29	H30
年長者研修大学校	入学者数	985	1,011	988	985	1,002
	延利用者数	67,583	65,941	65,238	64,880	63,969
穴生ドーム	延利用者数	121,094	122,797	119,864	124,567	119,991
(年長者研修大学校)						
<ul style="list-style-type: none"> 年長者研修大学校の延べ利用者数（短期講座等を含む）は63,969人であり、平成29年度に比べ911人減少し、年間コースの入学者数は1,002人で、平成29年度に比べ17人増加した。 年間コースのほか、新たな研修生獲得に向けて、トラブルで困らないための相続・遺言の基礎知識や地域のまちづくりの仕組みについて学ぶ内容を追加するなど、研修内容の見直しと、体験入学講座や短期講座など気楽に参加できる講座を実施した。 						
(北九州穴生ドーム)						
<ul style="list-style-type: none"> 穴生ドームの延べ利用者数は119,991人で、平成29年度に比べ4,576人減少した。 グラウンド・ゴルフ大会の実施やニュースポーツの出前講座の開催、健康ウォーキング事業のほか、高齢者から要望の多いテニス教室も開催し、高齢者の健康づくりに継続して取り組んでいる。 						
(2) 利用者の満足度						
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。						
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取り組みがなされたか。						
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。						
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。						
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。						

[所見]

<年長者研修大学校 アンケート結果>

(単位:%)

内容	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
受講した講座について →非常に良かった、 良かった	97	97	98	96	97
苦情や要望等への職員の対応 →非常に良かった、 良かった	96	97	99	97	98
総合的な意見 →大変満足、 満足	96	96	99	97	98

<北九州穴生ドーム アンケート結果>

(単位:%)

内容	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設は利用しやすかったですか →非常に良かった、 良かった	94	95	97	96	90
苦情や要望等への職員の対応 →非常に良かった、 良かった	95	94	97	99	96
総合的な意見 →大変満足、 満足	97	96	98	98	94

利用者のアンケートの結果、いずれの施設においても講座の内容や施設、職員の対応・マナー等全ての項目で90%以上の満足度を得ており、利用者の評価は高い。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

[所見]

<支出総額推移>

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
支出総額(単位:千円)	191,827	185,927	186,328	190,010	187,470

前年比(単位:%)	8.0	-3.1	0.2	2.0	-1.3
<ul style="list-style-type: none"> 支出総額は187,470千円で、対前年比で約1.3%減と経費の効率的な執行がなされた。 					
(2) 収入の増加					
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。					
[所見]					
<ul style="list-style-type: none"> 年間コースのほかにも、短期講座や市内の大学を活用した校外授業の開催で収入の確保に努め、指定管理者の自主事業による収入は4,533千円となり、昨年度の4,620千円とほぼ同等の収入を確保した。 					
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み					
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況					
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。					
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。					
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。					
[所見]					
<ul style="list-style-type: none"> 卒業生を中心とした同好会や、ボランティアグループ等への活動の場を提供した。 大学祭や年長者と孫の集い等のイベントで地元住民との相互交流を図った。 研修生が通学路上での交通安全指導と子どもの見守り活動を年間を通して実施した。 					
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など					
① 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。					
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。					
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。					
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。					
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。					
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。					
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。					
[所見]					
<ul style="list-style-type: none"> 個人情報について、「個人情報保護方針」など必要な規定を設け、適正な管理を行っており、漏洩等の事故は発生していない。 適正なスタッフ配置による安全管理により安全確保に努めており、利用者へのサービス向上と事業者としてのスキルアップに努めた。 					

【総合評価】

[所見]

(年長者研修大学)

- ・ 生涯学習を通じた生きがいつくりの場、地域活動を担う人材育成の場としての取り組みが積極的に行われた。
- ・ 利用者アンケートの結果によると、全ての項目で高い満足度が得られている。

(生涯現役夢追塾)

- ・ 情報企画力、問題発見力等を養う講座を通じて地域貢献活動、産業活動を担う人材育成に取り組んだ。塾の前期課程では、毎講座ごとにゲストスピーカーの話を聞いたうえで、グループで議論し発表するというプロセスを繰り返し実施した。また、後期課程では、3つのチームに分かれて、計画立案からプロジェクトの実行を具体的に行う、プロジェクト・ベースド・ラーニングという手法で実践的な力を身につけた。卒塾後も、プロジェクトチームの活動を継続して行っており、さらなる地域貢献活動等に取り組む予定。

(北九州穴生ドーム)

- ・ 年長者の健康増進施設として、高齢者をはじめとした市民の健康・体力づくりを推進するための様々な事業が実施された。利用者アンケートでは、全ての項目で高い満足度が得られている。

総合的な評価として、設置目的に沿った適切で円滑な運営が行われたと認められる。

[今後の対応]

(年長者研修大学校)

- ・ 年間各コースの応募数に定員越えや定員割れとばらつきがあり、さらなるプログラムの見直しや積極的な広報活動により新規受講生の獲得に努める必要がある。

(生涯現役夢追塾)

- ・ 入塾生の確保、卒塾生による地域貢献の活性化、卒塾生の活用につながるよう、指定管理者及び同窓会のネットワークを活用しながら対応する必要がある。

(北九州穴生ドーム)

- ・ ニュースポーツの普及促進や各種大会の開催など、利用者の増加に向けた取り組みを継続していただきたい。